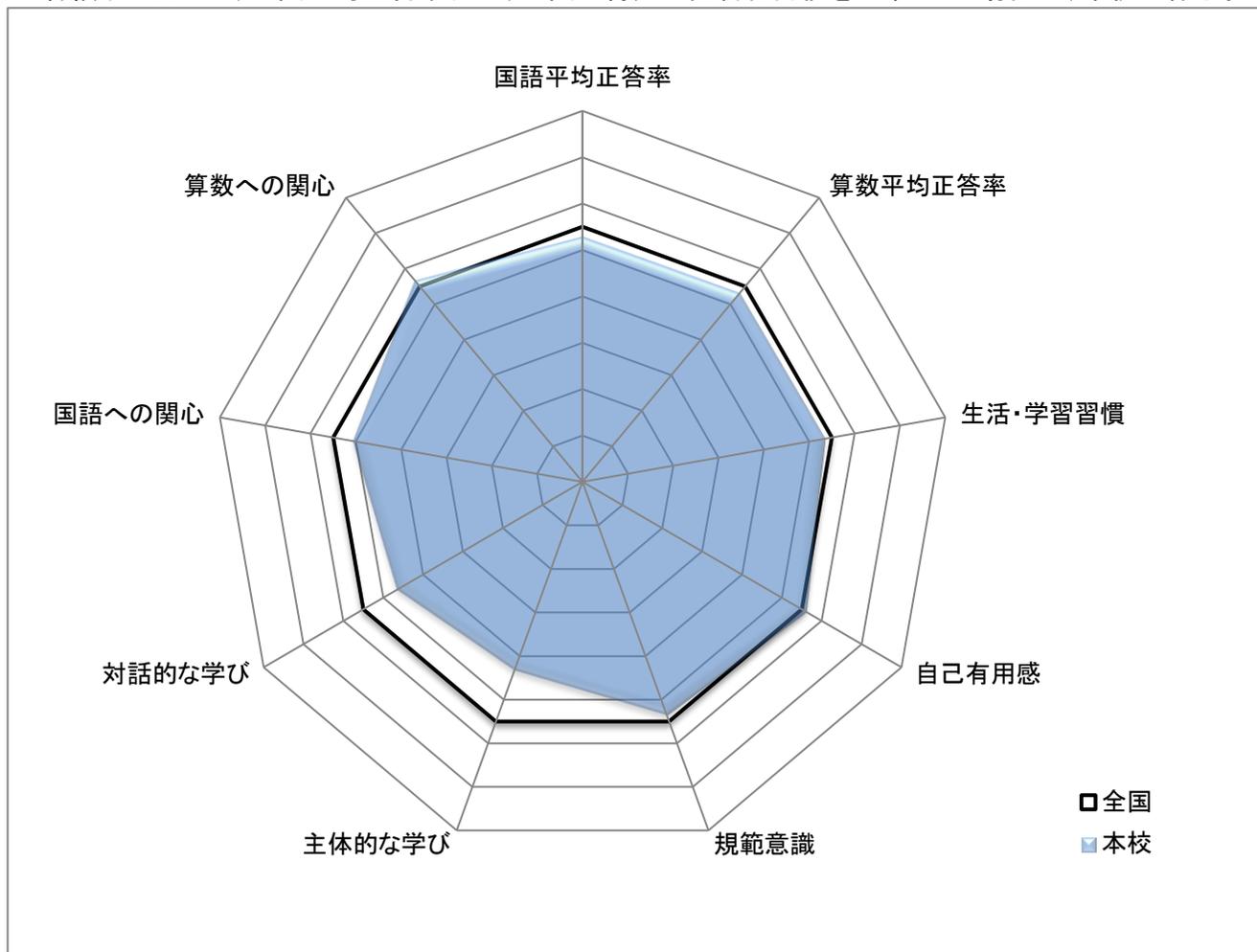


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

- ・国語の平均正答率は、全国平均より2.8%下回る結果となった。さらに、国語への関心の項目では、全国平均より大きく下回っている。
- ・算数の平均正答率は、全国平均より2.6%下回る結果となった。しかし、算数への関心の項目では、全国平均より3%上回っている。
- ・主体的な学びや対話的な学びの項目では、本校の値が全国と比べて大きく下回っている。
- ・自己有用感の項目では、「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標をもっている」の項目で、全国を大きく上回っている。

《授業改善のポイント》

- 話し合い活動の充実
  - ・「主語・述語を意識して話す」「話している人を見て聞く」等、話し合いの基本を徹底し、児童相互に意見の交流を深める活動を充実させていく。
- 児童の関心・意欲を高めていく授業の展開
  - ・言語活動を意識した学習
  - 日常生活に生かせる学習の工夫
  - ICTを活用した教材提示
- 問題解決的な学習の充実
  - ・問題の題意をしっかりと捉えさせる。
  - ・学習時間のめあてを児童一人一人に把握させ、課題に取り組ませる。
  - ・解決への見通しをもたせる場や時間を設定する。

《チャートの特徴》

- ・本校の国語、算数、それぞれの平均正答率は、全国平均より2.6～2.8%下回る結果となった。算数では、5年時と比べ、徐々に基礎基本が身に付き、学力の底上げができてきている。
- ・算数への関心が全国平均と比べると3%上回っている。「算数の勉強は好きですか」の問いに対して、本校では肯定的な回答が約77%だった。これは全国と比べると10%程度上回っている。児童の意欲・関心を維持し、それを主体的な学びにつなげていく必要がある。
- ・主体的な学びの項目が全国と比べて大きく下回っている。自分で課題を見つけ、情報を整理し、周りに発信していく良さを児童に気づかせることが必要である。

《家庭・地域への働きかけ》

- ・家庭学習を計画的に出し、内容や理解の様子を確認してもらう。
- ・家庭においても読書の推進をしていく。言語活動の充実のために、様々な語彙力を身につけさせることが必要である。